

# SAT だより

SKI ASSOCIATION OF TOKYO

No. 38

発行 (財)東京都スキー連盟

〒102 千代田区麴町4-5

第6麴町ビル 551号

TEL (3262) 2491(代)

発行日 H8. 6. 1 発行

編集 SAT編集委員会

印刷 エース工芸株式会社



## 9ヶ月を振り返って

会長代行 井上 衛

昨年8月6日現執行部が発足し、早9ヶ月が経過しました。一般の家庭でも事の善し悪しは別として30年に1回は大きい変化があると言われております。それにしても昨年8月までの都連の出来ごとは前代未聞でした。

このように過去2年間はいろいろなことがあり、前途多難が予想される中で誕生した現執行部は案にたがわず多難の9ヶ月でした。小生は昭和35年以来何らかの形で都連に関わってきました。しかし、このような不祥事にあつたのは初めてです。

原因は執行部の不慣れ、前執行部からの引継ぎが出来なかったこと、そして多少の人間の確執等が相乗したためと考えられます。その結果、決算の評議員会を5回も開催しなければならなりません。寄付行為で決算の議決は現在の評議員数の3分の2以上となっており、議論百出の評議員会での可決は到底不可能でした。しかも今まで問題にならなかったことが問題点として浮上してくるのは何故なのでしょう。これは過去の経過から執行部と評議員との信頼関係が薄くなっているからではないかと考えられます。これは非常に重要なことです。組織活動でお互いの信頼関係が薄くなることは、場合によっては組織の破壊につながりかねません。

したがって、執行部としては部内はもちろん、評議員、代表委員そして会員との信頼関係を回復するために全力を尽くす所存です。

組織内部にいかなる事情はあるにせよ、執行部は雪上行事を遂行する義務があります。

これは現場を抱えている都連という組織の執行部の宿命であります。会員の評価は種々あるでしょうけれども執行部としては協賛団体、賛助会員そして各本部、各部専門委員の協力を得、雪上行事の遂行に努力をしてきました。お陰さまでほぼ無事終了することができました。ご協力を頂いた各位に対し深く感謝の意を表します。

雪上行事に参加して感じたことは、組織内部では懸案事項が未解決で執行部（小生だけかも知れない）は憂鬱なのに、参加している皆さんの顔が澀刺とし、そして、評議員の方も評議員会の雰囲気はどく吹く風で意気揚々と滑っていたことです。この光景を見たとき、矢張りスキーヤーは滑ることに生き甲斐を感じていることを痛感し、自分の苦痛が少しは軽減する思いでした。そして、この人達のために自分はなにをやるべきか、なにをされるのか、それは都連運営に死力を尽くすことしかないと感じました。

今後は残任期間も少なくなりましたが、当面の課題としてH9年度の行事計画、予算案の作成、そして前述した加盟団体、代表委員、そして評議員との信頼関係をつくりあげるとに微力ではありますが、最善の努力をしていきたいと思えます。また、将来に向けては規約等審議委員会の協力を得、寄附行為、規約などの整備をし、60年続いてきた都連の益々の発展のために最善の努力をしたいと考えております。

皆さんの絶大なるご協力、ご指導ご鞭撻を切にお願い申し上げます。

# 振り返ってみて

専務理事 金子賢一

なかなか春らしい暖かさを感じないうちに、暦はもう5月になり、何かしらあつけなく花の季節が過ぎたという4月でした。

都連の行事（雪上の）という、仮に5月以降に何かしら残っていても、感覚的にはもう終わったものと、大して気にも留めていない他人ごとのように思われます。しかし都連という生き物はきちんと呼吸しています。外的には動きが鈍ったように見えますが、内的活動はここ数年のショック療法や、苦い良薬のおかげで治癒に向かいつつあります。……善意に解釈しています。

去年の37号都連便りに、思いついたまま“手近なものですぐ着手できるものから、将来を見据えて実行したい”……本当にそのときはそう思い、また簡単にできるものとの思い込みがありました。しかし現実には一人で思ったほど簡単ではなく、何度となく挫折感を味わったのも現実でした。

連休中に“永六輔”著の「大往生」とその続編を読み、ちょうど我々の年代にピッタリのペーソスに包まれた楽しい本でした。その終章に（無断で引用させていただく）

生きているということは  
誰かに借りをつくること  
生きてゆくということは  
その借りを返してゆくこと  
誰かに借りたら  
誰かに返そう  
誰かにそうして貰ったように  
誰かにそうしてあげよう

難しい論議は別にして、単純にそして何の思惑もなく、みんなが納得するような規約、規定の整

理を規約審議委員会をお願いしてあり、ご判断を仰げるように進行しております。

財団法人として連年お題目のように唱えられている、財政基盤の強化も、現在のような経済情勢の中で特定の協賛会社依頼も難しい、会員同士の意思の掘り起こしによる協賛体制の整備や、事業計画の見直しによる節減なども財務委員会や各事業本部と協力しながら考えなければならないと思う。

ここ1年に満たないシーズンにおける都連の行事实施に当たり、雪上の現場を観た限りにおいては、それぞれの専門委員が自分の持ち分においてしっかりとその職分を全うしており、会員諸氏に替って厚く感謝したい。苦言を呈すれば執行部理事は都連の政策担当者としての心構えを現場サイドにおいても自覚し、外部対応と内部統制に一層の努力をお願いしたい。

執行部自体としての猛反省は、4回に渉る評議員会の開催にかかわらず、決算の承認を得られなかった数々の不手際を陳謝するとともに、決算書の修正を理事会で決議し5月12日の第5回目の評議員会において満場一致で決議いただいたことは責任の一部が全つうできたと考えています。しかしながら5回もの評議員会を開催しなければならなかった現実はこのままでは済まされない問題であることを深く認識し、今後に十分生かしたい。

冒頭に挙げた「大往生」より引用して  
評議員会に正しいことの借りを作つた  
正しい解釈をして借りを返そう

この考え方で今後の明るく、正しい都連運営を図りたいと思います。

## 総務本部報告

総務本部長 中嶋 淳

昨年8月6日に新執行部が発足しました。総務関係につきましては、私を含めて5人の理事、し

かも全く未経験者の集まりでの活動開始となりました。前執行部からは全く引継ぎがなされずのま

までした。専門委員10人の協力を得て、即シーズンへ入って行きました。

昨年10月8日の定期評議会で決算が否決され、この5月12日の評議員会が5回目でやっと承認されるという前例が無いものでした。この原因は、監査で発見出来なかった紛失金問題が、決算書類作成の段階で出てきたこと。また隠し銀行口座問題などで、評議員の皆様方にとっても、何がどうなっているのか良く判らず、何度とつても、何がどうなっているのか良く判らず、何度評議員会を開催しても、決算よりそつちはどうなっているんだと言う声の方が強く、決算承認に至らなかったものと思われます。都の教育庁にも、その都度報告に行き、状況説明を致しました。担当係長は、決算が異常におくれていることはいたし方ない。評議員全員が納得する迄じっくりやって欲しい。と言われたことに救われた思いがしました。悪いのは執行部だ、いや評議員会だと言う問題ではなく、都連の皆様方に理解を得る時間が、シーズンまつ最中をはさみ、足りなかつた為と断じて良いと思います。

日常におきましては、経理、会計への指導、各種委員会への総務本部参加と、多忙を極めております。財務委員会・規約等審議委員会・国際委員会・役員、評議員選出管理委員会などなどの分野

で既に活動中です。各方面から一番指摘の多いのが、経理、会計についての点です。お金を考えずにやるなら簡単です。電算化し、プログラマーを置くなどです。これは大変な出費になるのです。現在の事務所の電力使用量は今以上に増やせないし、スペースも狭いので新しい処へ移転しなければなりません。(36坪で54万円)今の家賃の倍は必要でしょう。人を増やせば良いと簡単に言いますが、オフシーズンは比較的事務所も暇で、人件費のムダになります。ご承知の通り、この財団は特殊で、果実収入が無く、皆様の浄財で運営されています。だから経費は極力少なくしなければなりません。せいぜい増員につきましては、経理専門の担当職員1名が考えられる限度です。こんな現況の中にありましても、総務本部として、手の届く処から経理、会計担当理事を中心に改善指導をしております。例えば複式簿記に改めつつあるのもその一つと言えるでしょう。多少の時間を要しますが、少しづつ財団の経理らしく生れ変わらうとしておりますのでご期待下さい。これから9年度予算の承認、8年度決算報告と再び評議員はじめ都連関係の皆様方にはご理解、ご協力をいただくこととなります。専門委員を含め総務本部が一体となって、一生懸命取り組んでおりますのでご協力の程お願い申し上げます。

## 指導員研修会について

教育本部長 増田千春

豊富な雪に恵まれ安定したコンディションの中で研修会が終了できました。会員の皆さんをはじめ関係者のご協力に感謝を致しております。

7月の海外研修会(中止)を除き14回の研修会を設定しました。昨シーズンのアンケートをもとに都内理論を含む実技土日、平日並びに技術選手権、準指検定会に合わせた日程等が新しい試みでした。内容の充実と安全面に配慮し1クラス18人以下の班編成で臨みましたが、募集人員を押さえ込む結果となり、暮れの研修会に参加出来ない方々が生じ、検定内容の説明会(3回)を設定す

るに至り会員の皆さんにご迷惑をお掛け致しました。

特に年末の研修会は参加希望者が多い事、反面シーズン前の雪の少ない時期、規模の大きさによる一般スキーヤーへの影響や安全面にも考慮し再度検討しなければならないと考えております。

研修テーマは、検定種目の理解を通して教程、教本を理解しようとするものでありましたが、実技研修ではエッジングの質的变化(仕方)による指導法の展開が実感出来ない方が多いようです。スキーの性能が年々向上しており、これに見合っ

た指導法が望まれている中で、エッジングの度合を実感する事は指導の柱とも言えるでしょう。

来シーズンの市場は短かめの絞りのきつい形状のスキーが出回ることが予想されます。このような“さらに回わし易いスキー”を、どのようなタイミングで力を使い、扱っていくか？を指導していくことが課題となります。またスノーボードと今のスキーの間に位置する事になるこの“回わし易いスキー”を誰にサービスしていくか？も考えてみたいものです。級別テスト、準指及び指導員と言った技術指向の高まりの中で育った私たちが見落している層へのアプローチが今、求められています。

とりわけ研修会はその年のテーマを伝達しなければなりませんが高年のスキー指導を実践化する

為の研修と同時に、土日の休日を利用したジュニアに対する指導の研修は都連の急務と考えております。

社会体育制度との関連から研修会の内容が充実し時間的制約も厳格になっていく傾向にあります。100名を超えるスタッフで会員の参加しやすい日程に対応すべく努力をしておりますが、100名の指導力の標準化には時間の猶予を戴きたいと思えます。

また研修会でのライセンスの不備が多く見受けられます。身分の証となるものですから規定通りの準備をされて参加される事をお願い致します。皆さんの協力のもと何とか中高年とジュニア指導の研修会が具体化するよう指導部のスタッフと共に努力したいと考えております。

## '96 準指導員検定報告

教育本部 副部長 前田 利夫

合格された方々に心からおめでとうとお祝いの言葉を送るとともに、次回の検定に再度チャレンジされる方々に、そして受験者をかかえるクラブの方々のために、2度の検定会の担当理事を行なった立場から今年度の検定会の様子を報告します。

'95シーズン前にスキー教程の改訂が行なわれ、'96シーズン直前に各種検定の種目内容の改訂が行なわれる、そういった中での検定会となった。各加盟団体は受験者対策のために、指導員研修会の中で、すこしでも早く情報を得たいと、12月の研修会に多数の参加希望者が集まり、受験者は検定種目の内容理解のための情報収集にと、例年に比べれば大変な受験シーズンであったと思います。

救急法講習会からスタートし、指導者要請講習会理論(10/14)、準指導員検定理論(11/12)そして1月の指導者養成講習会雪上実技、ここまですべてクリアして3月の実技検定との道が繋がった900数十名が、合否判定を受けたこととなります。

今年度より検定会を3月に移動し、受験者が十分滑りこめる環境を作り、2月には、特別講習会

を実施、受験に対しての義務ではなく、理解が不足している受験者対策としました。この特別講習会は申込開始日にあつという間に定員300名が満員となるほど好評でした。こういった需要に次年度はより充分な対応をすすめる考えです。

結果として

申込者 (A) 966名

受験者 910名

合格者 (B) 270名

合格率 (B/A) 28.0%となりました。

バーン設定を2週にわたって同一条件に、特別講習会でのジャッジマンの目あわせ、ディスカッションと2週にわたる天候以外の条件を出来る限り同一にする努力の中で、SAJ本部員(高野・小助川氏)の立合いを受け、さらに、評議員会より、阿部、真鍋両氏の視察も受ける中、主任検定員を中心に、公正な検定会が実施されたことを報告します。

なお各会場の主任検定員の所見をまとめ記載します。

○種目改訂の初年度ということで、受験者の理解不足が見られた。

○指導種目、特にブルークターンや基礎パラレルターンでは、ワイドスタンスやオープンスタンスの有効性が充分活用されていない。また回転孤の調整においても、縦長のスペースが使えない受験生が多く見られた。

○実践種目については、スピードのある中での安定した舵とりとポジショニング、スムーズな重

心のクロスオーバーに関して未熟なものが多かった。

この内容の解決が次年度合格につながるようになります。指導者養成講習会、特別講習会の内容充実の課題として、理論的な頭の整理の上で立つて正確な実技が出来るよう取り組みを強めるつもりです。

再チャレンジされる受験生もがんばってください。

## 「'96シーズンを振り返って」

競技本部長 小倉信夫

百何万円かの不明金や簿外預金通帳問題ならびに、これらを巡る評議員会対策など、私達現場サイドの人間にとってはなかなか雪上行事に集中しきれない状況下で'96シーズンはスタートしました。

競技本部執行部としても、全理事心を一つに一丸となって……とは、とても言い難い状況ではありましたが、昨シーズンと同様、専門委員諸兄のご尽力と各行事スキー場関係者のご協力により、レーシングキャンプの一部を除き、全ての事業を無事終了することができました。本当にありがとうございました。

さて、今シーズンを振り返り、今後のSATのために自分の考えていることを二・三述べさせていただきます。

### ①真にSAT会員のためのレースの提供

a SATはマンモス組織を挙げてレース環境の良いスキー場との協力体制をつくり上げ、より良い条件下でレースを開催すること。

b 各種スポンサーを募る等して、少しでも安価なエントリーフィーとすること。

c 各種研修、上部団体主催レースへの派遣などにより競技専門委員の知識・技術の向上を図

り、より高度な大会運営を行うこと。

などが必要であり、a、bは理事執行部が、cは専門委員が各々中心となって進めることと思います。

今シーズンは平成不況の影響もあり、各レースのスポンサーが激減し、結果としてエントリーフィーの値上げにつながったことは、誠に申し訳のないことと深謝いたします。

また、このような状況下、新たにゼッケンスポンサーなどを引受けていただいた協賛各位には、本当に感謝いたします。

### ②ジュニアから成年までの一貫した選手強化

国体の出場選手を見ていると、ジュニア時代、SAT Jr チームで頑張っていた選手が、B組・C組でまた出場し、本大会でも上位入賞を狙える位置まで来ているという状況があります。

今後の選手強化策としては国体で上位入賞可能な選手には、ジュニア・社会人ともSATの費用負担でレーシングキャンプに参加してもらう、また、ジュニアチームのコーチとしても参加してもらうなどの一貫した強化が必要と思います。

今シーズンはPR不足がたたり、社会人対象のレーシングチャンプも不発に終わってしまいま

価で質の高いレーシングキャンプを提供してもらいたいと思います。

### ③「歩くスキー」継続実施

第一回、第二回は参加者はまだまだ少数ですが、今後のスキースポーツの一つの方向性とし

て、是非継続実施と発展を望みます。

最後になりますが、自分の力不足で考えていたことのほとんどが実践できずに'96シーズンが終わってしまったことをお詫びして、筆を置きたいと思っています。

## フリースタイル・スキー部報告

フリースタイルスキー部長 渡 邊 宏

既に新聞や専門誌に掲載されたことであるが、今期ワールドカップや、全日本選手権大会に於ける、都連所属選手の成績を報告したい。

ワールドカップ最終戦のアクロススキー（パレエという呼称が変更になった）で、史上初の4位入賞という快挙を、田中 由香子（港区MFF）がなした。同大会で近藤 有希子（三英電業）も9位と健闘し、日本のアクロススキーの存在をアピールしてくれたことは、大きな第一歩だと思う。

次は3月15日から開催された斑尾高原スキー場での全日本選手権の記録である。

### ・アクロススキー（女子）

- 1位 田中由香子（港区MFF）
- 2位 近藤有希子（三英電業）
- 6位 稲葉 舞子（港区MFF）
- ☆10位 藤巻 奈己（スカーゼ）

### ・アクロススキー（男子）

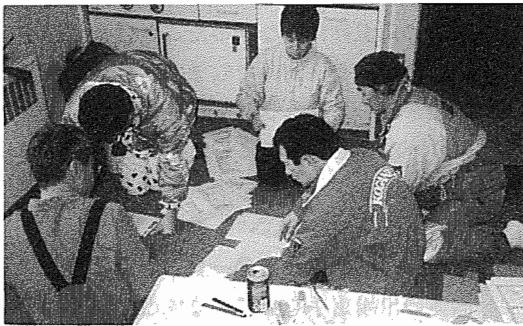
- 1位 長谷川宏太郎（港区MFF）
- 5位 原田 修平（スカーゼ）

### ・モーグル（女子）

- ☆4位 堀江寿美子（東京チーム  
リステル）

### ・エアリアル（男子）

- ☆2位 丸本 健（スカーゼ）
- ☆4位 田中 裕介（スカーゼ）
- 10位 木島 哲夫（DDダイヤモンド）



専門委員は試合が終ると「リザルト」作りに大忙がしだ

★好評発売中！

**96新作スキー・ビデオ**  
（第33回全日本スキー技術選手権大会）  
税込価格3,800円（カラー70分）宅000  
●男子10位、女子3位、男女各校各10位を記録。

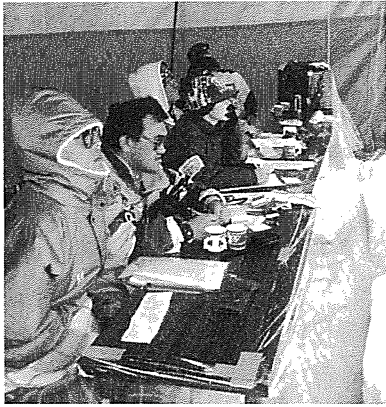
**96技術選**  
（第15回インター・スキー野沢温泉大会）  
最新！日本の技術世界の技術  
●全国のデモによる独特のスキー技術を解説。  
●全回の内容を収録したDVDを解説。

●既刊スキー・ビデオ  
「ビデオ版」(創刊)日本スキー連盟編  
**日本スキー教程**  
**日本スキー指導教本**  
各税込価格4,800円（カラー34分48分）宅000  
●最新版のテキストに添えて、わかりやすく編集・映像化した日本スキー界指導のビデオ。

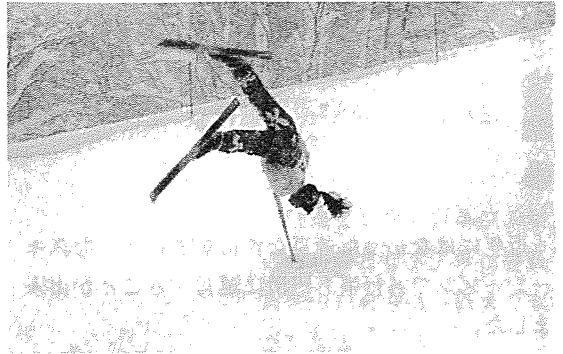
●全日本スキー連盟・承認（スキーヤークラス）  
A5判・定価1,300円（税込）〒310  
●重要テーマを解説する新検定の検定対策。

スキージャーナルの  
スキー図書&ビデオ

新住所 ▶ 〒160 東京都新宿区荒木町20 インテック88ビル **スキージャーナル** 株 ☎03(3353)3051 郵便振替・00100-1-33504



真剣に見るジャッジ・ハウスにて



ストックを支点にして（アクロスキー）

以上のような成績であるが、この中には、強化指定選手（☆印）も含まれ活躍してくれた。

### ◎これからの事業計画

先シーズンの成果を踏まえ、F S S部の行事内容の充実を計りたい。

- (1) 雪上行事で活躍できる専門委員の補強。
- (2) 普及面で、さらなる競技人口と底辺拡大のため、より参加者の集る行事の開催。
- (3) 選手強化のために底辺拡大と共に、全日本強化指定選手を育てるため、少数の指定選手により多くのチャンスを与えるようにしたい。

モーグル競技に於ては、先シーズンから都独自のポイント制を導入した。これはS A J公認大会のレベル維持の為に、予想以上の成果を挙げることができた。



雪も一緒に舞い上がる（エアリアル）

今後は行事参加者の充実のため、事前の告知活動をよりいっそう行いたい。

シーズンを振り返って、あらゆる面で環境の整備等にご協力いただいた方々に厚く御礼申しあげると共に、今後益々のご支援を紙面を通して、お願いする次第である。

## 車山高原の休日

フラッグシップ・リゾートホテル  スカイパークホテル

での「ゆとりの休日」をお楽しみください。



高原のチャペルで教会ウエディングはいかがですか

SKYPARK HOTEL

☎ 0266-68-2221

信州総合開発観光株式会社  
茅野市ビーナスライン車山高原

# 安全対策部報告

安全対策部部长 中澤 義 昭

近年にはなかつた豊富な雪に恵まれ充分なスキーシーズンで各行事も円滑に運営することが出来ました。

最近のスキースポーツ事故も自動車並みになって来ており、その対応とそれからスキースノーボードの長野オリンピック開催に向けての諸問題など多様です。安全対策部としてはスキー傷害が米国並みになって来た現状にどう対応していかねばならない。その役割と任務について今考え直さなければと思っております。

96年度の救急法講習会はNTT麻布セミナーハウスで2回に分けて開催いたしました。

10月1日(土)

申込者数 400名 出席者 390名

10月7日(日)

申込者数 298名 出席者 285名

午前の講義は、日本赤十字血液センター副所長高橋有二先生からスキー傷害概論を受講し、午後は日本赤十字社東京都支部救急法指導員から救急法の講義、三角巾を使つての実技が行われました。準指受験者、各加盟団体安全対策担当者の方々が熱心に受講されました。

S A J公認パトロール受検者養成講習会は日程の関係で12月22日(金)～24日(日)車山高原スキー場で開催致しました。受講者数東京10名、神奈川7名、千葉1名計18名の参加で行いました。雪状は良好で例年にない講習が出来たと

思っております。ただロープワークと三角巾の室内講義と雪上に於けるアキャボート操法はもう少し時間があつたらと思っております。

結果は、7名の方が合格しました。

第11回全国パトロール技術競技大会が3月30日～31日に野沢温泉スキー場で開催されました。(昨年度はメンバー不足で欠場)今回東京都はA、Bチームの2チームが出場し、参加27チームの中で総合成績でAチームが入賞し、Bチームが18位、雪ナシ東京都連が大奮闘しました。例年下位の成績でありましたが、昨年度、アキャボートの中古を手に入れ、合宿などを実施したことが好成績になつたものと思っております。

メンバーの構成は下記通りです。

Aチーム(安全対策部の専門委員が主体のチーム)

リーダー 大信田雅伸

メンバー 富樫美昭 大久保康男 高嶋忠之  
加藤敦史

Bチーム(世田谷区スキー協会が主体のチームで多大なご支援を頂きました。)

リーダー 安槌敏晴

メンバー 小俣雅史 小俣比呂美 濱田 裕  
津幡 淳

団長 安対部長 中澤 コーチ 専門委員 内田で参加致しました。この機会にますますスキー界の発展と安全対策の為に邁進致したいと思います。





# 社会体育指導者制度の現状と今後の動向

## 社会体育指導者制度委員会

昨年秋の都連の評議員会で、理事会から「社会体育指導者制度の凍結を解除して、スキー指導員（地域指導者）の移行措置による資格獲得のための講習会を実施する」ことに関する提案を上程し承認された。直ちに理事、専門委員約100名を対象に日本体協、都体協と協議の上でC級スキー指導員の移行講習会を行った。

体協との協議のなかで、移行措置については、「SAJ全体では今年をもって打ち切りですが、東京都スキー連盟については、向こう5年間延長しましょう」との確約が得られた。初年度の実施手順としては、11月下旬に執行部スタッフを対象に小人数で試行的に実施し、シーズン末の3月下旬に他県スキー連盟でC級を獲得された方々を加えて100名弱を対象にB級スキー指導員の移行講習会を行った。これによって実施上の方策のおおよその確認を得ることができた。

次年度からは、平成2年3月31日以前の指導員資格取得者（準指導員を含む）を対象に広範囲に移行措置を実施することになる。

平成2年4月1日以降の資格取得者に対しては、日本体協とSAJでは次年度よりスキー指導員（地域指導者）取得の免除措置の適用を計画しているが、次年度のSAJの評議員会の承認を得たうえでの実施となる。

（免除措置）についての取得内容は下記ようになる。

●スキー指導員C級—専門科目は免除、共通科目はNHKの通信講座40単位の受講によって、資格の獲得ができる。

●スキー指導員B級—C級取得後に受講が可能になる。C級と同様に専門科目は免除されるが、共通科

目は集合講座40単位の受講が必要となる。準指導員資格の保有者はB級まで取得できる。

●スキー指導員A級—B級取得後の指導員資格の保有者が対象となる。但し共通科目の集合講習は日本体協で実施するものを受講することになる。

東京都スキー連盟においての、免除措置の実施に関しては、次年度は移行措置の本格的な実施となるので、免除措置を一緒に行うことは技術的には無理であり、他県連に1～2年遅れての実施になると考えられる。遅かれ早かれ実施しなければならないので、次期執行部の懸案事項として申し送られる事になる。

（商業施設の教師の免除措置）に関しては、目下、SAJ内部で免除内容について検討中であり、自分の間の結論待ちになる。SAJの次期執行部の懸案事項となっている。

現在、免除措置に関して表面に出ている規定の講習単位数は、習得をためらわざるを得ない位のボリュームがあるので、出来るだけとりやすい方向で試案を作成中である。

全日本スキー連盟では、SAJ指導員制度と社会体育指導者制度の2本立を実施していく経過の中では、両者のカリキュラムについての整合性を図る必要性が生じている。特にSAJ側にそれが求められている。準指、指導員の養成過程、指導員研修会のカリキュラム内容等が挙げられる。

（問題点）内容の充実は望ましいことではあるが、各都道府県連盟の行事日数や時間数の増加につながり、さまざまな形での負担増から、行事運営の難しさにつながりかねない事が予想できる。

# 「F S(フリースタイルスキー) モーグル競技の ポイント制度導入に関して」

F S 専門委員総務小委員会副委員長 安 藤 薫

都連では先シーズンから F S モーグル種目に A 級公認大会参加のためのポイント制度を導入した。

全日本選手権大会出場の資格を得るための、地方大会（A 級又は B 級公認）でのポイント制度導入は以前より実施されていたのだが、今回の実施により、都連所属の選手にとっては更にクリアしなければならない関門がまたひとつ増えたことになる。

アルペンなどでは今更でもないこの話題も、F S 界における各都道府県レベルでは初めての試みであった。

ここ数年の F S 人気、特にモーグルにおいてのそれは、オリンピックでの正式種目に決まってからはとどまることを知らぬかのように高まる一方である。

F S の知名度が高まり、競技人口が増えることは大いに結構なのだが、地方大会に想像を絶する参加希望者が殺到することは、収入源のアップという台所事情を考慮しても、運営サイドのメリット増とは決して言えない。

まず、運営サイドから考えれば、当然競技時間の延長による様々な面での負担が膨大なものとなる。予選だけで 3～4 時間以上もかかるのであれば、その間のジャッジを始めようとする役員集中心力は、これはもう平等・正確・迅速という原則を、冷えきった体に充分浸透させての根気比べということになる。

さらには、長期の拘束時間や激しい肉体労働に不満の声も洩らさずに、積極的な協力を頂戴しているスキー場関係者への慎重な気配りも重みを増してくることは否めない。

最も、半ばボランティア精神を持ち合わせて業務の遂行に当たっている役員達にとっては、良い滑りを見たり、レベルアップを発見したり、或いは表彰台での満面の笑みを浮かべる選手を見るこ



ダイナミックなコザック

とによって、苦勞は報われてしまうのであるから、さして大問題ではないのかもしれない。

それよりも重要なのは、選手サイドにとってのデメリットである。

自然を相手にするスポーツはどんな競技でも同じであるが、できる限り同じ条件下での競技を成立させたいと、スタッフとして願わずにはいられない。

自然のコブを利用して競技を行うモーグルは特に、参加人数の適正な事前確認を行わないと、朝一番のアイスバーンを滑る選手と、昼近くの失速してしまうウェットな斜面を滑る選手とで、ハンディキャップが生まれてしまう。ひどい時には、コブ（コース）自体の形状が違ってしまっていたり、エア台（競技中にジャンプを行うための台でコース内に 2ヶ所設ける）が誰が見ても分かる程に溶け、いつの間にか角度も明らかに変わっていることさえある。

コースの状態に限らない、選手のデメリットは

他にも、長時間の待機を要する大会でのコンセン  
トレーションの難しい点が挙げられる。競技時間  
が長くなればなる程、またスタート順が遅ければ  
遅い程、選手自身のスタート時間の「読み」が甘  
くなるのは必至である。余裕を持って早くからス  
タート地点で待機をしていれば当然、体も冷えテ  
ンションも下がってしまうし、かと言ってギリギ  
リに行こうと思うものなら、他選手のキャンセル  
のために間に合わず、D、S（スタートせず）と  
いう手痛い現実が待っているだけである。

いずれにせよ、メリットは皆無であろう。

では、運営サイドと選手サイドとの、どちらの  
デメリットを解消することを目的として、都連独  
自のポイント制度導入が実践されたのであろうか。

答えはいずれもNOである。制度導入によって、  
前期の事項は付随してくるだろうが、本来の目的  
は、地方大会（都連行事で言えば「東京都FS選  
手権大会」がこれに当たる）の質のアップである。

A級公認大会でありながら、A級に相応しいレ  
ベルを持ち合わせていない選手誰もが参加可能で  
あること自体が「？」なのである。競技人口その  
ものは年々増えているが、蓋を開けてみれば、ま  
だまだ選手の質としては「楽しみたい」レベルの  
人口が半数以上であろう。トップになることを真  
剣に目標とし、そのための計画的なトレーニング  
や勉強をしているような、競技者意識を持った選  
手はまだまだ少ないのが、残念ではあるが現況で  
ある。

今や、FSはオリンピック正式種目であり、れ  
っきとした「競技」である。昔の「目立ちたい」、  
「他人と違うことをやってみたい」、ホットドッグ  
とは違うのである。幸いにして、最近では競技人  
口の増加に伴って、初心者や楽しみたい人のため

に、草大会（内容は様々で、中には規模の大きな  
大会や賞品がかなり豪華な大会もあり、草大会で  
の賞品稼ぎを目標にしている者もいる）が各地で  
数多く行われているので、人によってはそちらへ  
の参加もお薦めしたい。

さて、ポイント制度の実践、必要ポイントを取  
得した選手によって行われた東京都FS選手権大  
会は如何であったか。現場に足を運び、自分の目  
で見た者には過去大会との差は歴然である。一定  
レベル以上での戦いとなった大会は、練習中も含  
めて、互いの駆け引きや自己アピールを繰り返す  
ことが選手にとっての良い刺激剤となり、結果、  
全日本選手権へ向けての激戦をスムーズな運営の  
中で繰り広げることとなった。

今後見直さなければならない点（ポイント配分  
など）を更に注目し、選手にとってのより良い環  
境作りを目指したい。

まだまだ試行錯誤を繰り返す余地がある限りは  
…。



第4回東京都モーグル競技会、  
女子1位は都指定堀江選手(向って左)

海外スキーツアー、  
私たちにご相談ください。03(3203)9630

- 地球を滑ろうSNOW WORLDヨーロッパ・カナダ・アメリカ・ニュージーランド方面
- 南太平洋の島々へBEACH WORLDニューカレドニア・タヒチ・フィジー・ブーケット方面
- どんな旅でも03(3203)1213まで個人から団体・ご出張から社内旅行などご用命下さい。

社団法人日本旅行業協会正会員 運輸大臣登録一般旅行業第351号・一般旅行業取扱主任者橋本健

株式会社 クロサワトラベルサービス

〒169東京都新宿区大久保1-3-14ワールドビジネスセンター新宿5階FAX.03-3203-9633

# 1996年度準指導員検定会菅平会場の視察を終えて

眞鍋勝美 (シールクラブ)

阿部雄三 (リーゼンスキークラブ)



眞鍋氏



阿部氏

昨シーズンより 全日本スキー連盟の立会いを受け実施致しております。

(財) 東京都スキー連盟主催の準指導員検定会に執行部より評議員会へ視察の委嘱が有り評議員会代表二名がS A J立会いの後見人として視察をして参りましたので、執行部へ報告致しました。内容に基づき下記の通りその感想を御報告を申し上げます。

場所 会場 長野県 菅平高原スキー場

日時 (A) 日程 3月8日 (金)  
～3月11日 (月)

評議員 眞鍋勝美

(B) 日程 3月15日 (金)  
～3月18日 (月)

評議員 阿部雄三

## (A) 日程での感想

実施に当たり事前打合せの場においてや毎夜のミーティングにおいて総括責任者よりの指示が適切で有り検定会の実技役員の役割分担、実施要領及びタイムスケジュールは明確に成っておりその結果スムーズな行動進行運営が成されていました。

マークシート使用など新しく改善導入されたルールやシステムに一部不慣れな役員も見受けられましたが検定会場では系統的にルール化され職責と権限も明確に成っておりダブルチェックで厳正公平に運営されていました。

作業手順による集計判定会議の現場にも併せて視察し公平で有ることを確認致しました。

## (B) 日程での感想

実施に当たり総括責任者よりの指示が適切で有り各部署の責任者の行動が厳正公平に運営されていました。

前回の検定(A)の経過の反省などを考慮し役割分担及び実施要領等も更に明確に成っておりスムーズな進行運営がなされていました。

マークシート使用による各種目別の毎日の集計業務も、機器使用により検定員などの採点改竄も出来ないようになっているが、S A J立会い小助川氏の講評も全国に模範となるような検定会運営の継続をとのことでした。

以上総べての件公平で有ることを確認致しました。

課題 = 各種目(総合滑降を除く)のゴールに検定員とサポートの距離を得るためスキー板で境界としていたが危険防止の点からポールなどの使用が望ましく思われました。

## 総合考察

昨シーズンの東京都教育庁及びS A J立会いの指摘事項を含めた検定会そのものに教育部の皆様の創意工夫と懸命な努力の跡が感じられました。

現場では上記(A)(B)日程での感想の通り総括責任者による適切でタイミングの良い指示により厳正且つ公平に実施運営されている実態を視察し確認する事が出来ました。

雪上運営に於いても地元関係者との連携も良く検定バーンの整備や配置にも工夫が凝らされその結果連日スムーズな受験生のローテーションや検定員各位の手際の良い進行により終了予定時間の

30分～60分も早く終了する運営で有りました。

今後は受検生の側から見た課題として不合格者への配慮として来シーズンの課題を明確に出来る様種目別採点の開示並びに指導種目の採点基準理解浸透の徹底やシルバー組(50歳～!)などの明確な班分け及び規制種目総合滑降等の採点に更なる工夫が出来ればとの思いを込めて最終日の合

格発表迄視察し会場を後に無事帰京の途につき全日程の視察を終えることが出来ました。

初めての評議員会視察に御理解と御協力を戴いた関係各位に御礼申し上げますと共に今後共教育本部各位の益々の御健勝と御活躍をお祈り致しまして視察報告と致します。

以上



## 新 加 盟 団 体

団体番号	新加盟団体名	会員数	代表者名	紹介団体名
598	バンブーシュート スキークラブ	30	北野 雄太	スカブラクラブ
599	ハーウェル	30	横山 政行	アルススキークラブ
600	トライアングルS. C	30	秋山みつ子	ミワサススキークラブ
601	スキークラブ新鮮組	32	大沢 秀一	ジャスク
602	奥多摩スキークラブ	30	沢本 恒男	アスペンススキークラブ
603	スキーチームアスリート	40	米崎 雅夫	スノーマン
604	三英電業株式会社スキー同好会	31	古家 有年	ダイワ精工スキー部
605	ホワイトウイングス	44	村松 貞彦	日本アルペンスキークラブ
606	エヌ・ケー・エス	30	萩原 勝治	練馬区スキー協会
607	ネオスキークラブ	30	上杉 茂和	東京ケルンスキークラブ
608	上智大学アスペンススキークラブ	39	岡野 康伸	山友スキークラブ
609	スノーファンタジー		山口 政男	スマイルスキークラブ

## 第51回 すずらん国体

滝 沢 勇

去る2月20日、秋篠宮殿下、同妃殿下のご臨席のもと、第51回国民体育大会冬季大会スキー競技会が、岐阜県朝日村で開催されました。

朝日村は広大な面積の中に、人口約3000人という村です。村人総出の人情味あふれる歓迎の中、競技会は進行しました。

競技会の会場は、鈴蘭高原スキー場、北アルプス乗鞍岳と中央アルプス御岳の両霊峰を臨み、下呂温泉と高山市の中間という絶好の位置にあります。

東京都の役員選手団の宿舎は下呂温泉のホテル小川屋でした。快適な宿舎でしたが、会場まで車で1～1時間30分ほどもかかり、乗り物酔いをする選手が続出、本番での実力発揮が危ぶまれたのですが、合宿中に尾山理事知人の会場に近い旅館に移動、環境をととのえて競技会に臨みました。全員一生懸命頑張りましたが男女総合成績（天皇杯）では、前年より下り12位という結果でした。

### 第49回都民スキー大会クラブ対抗成績

クラブ名	総合得点	順位
世田谷区	66	1
ホワイトウィナーズ	46	2
チームフォン	35	3
KSC	23	4
渋谷区役所	23	5
東京スポーツマン	21	6
NEC府中	19	7
若葉SC	19	8
又ブリスキー同人	19	9
チロル	18	10

登録番号 No.291

## 東京消防庁スキークラブ

会長 河崎 和夫

12月から3月は、太平洋側では乾燥期に入り火気の使用と相まって必然的に火災が多発するシーズンであります。毎年多くの尊い人命が失われ、貴重な財産が灰塵に帰すことは誠に残念な出来事です。

このような火災多発期間中は、ことのほか運動を通じて体力・気力を充実させて強靱な体軀保持のために多種多様なスポーツを積極的に行っていくことが肝要であると考えております。

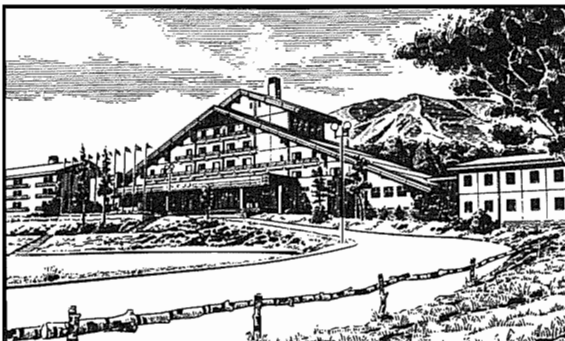
そんな中で、昭和44年に東京消防庁の職員を対象にしたスキークラブが発足しました。

消防署単位でのクラブ員を含めると200名を超える会員を擁し、最近では基礎部門にも力点を置いて活動しています。

毎年3月に上信越線沿線の消防機関の職員による親善大会も本年は22回を数え、昨年は阪神淡路大震災の関係で参加者が少なかったが、年々盛況になりつつあります。



ご家庭でも職場内でも、火災になりそうな危険要因を早期に排除し、火災を自動的に発見する感知器などを設置するなどして、安心して暮らせる明るい環境を整備してから、スキーをお楽しみ下さい。



スキーのマダラオしか  
知らない人は、  
ちょっと損していると思う。

四季折々、魅力つきない北信濃の楽園が待っています。

上信越自動車道/信州中野I.Cより40分

 **斑尾高原ホテル・スキー場**

〒389-22 長野県飯山市斑尾高原

☎0269-64-3311(ホテル) ☎03-3216-2611(東京予約)

## どんどん滑ろうドンスキークラブ

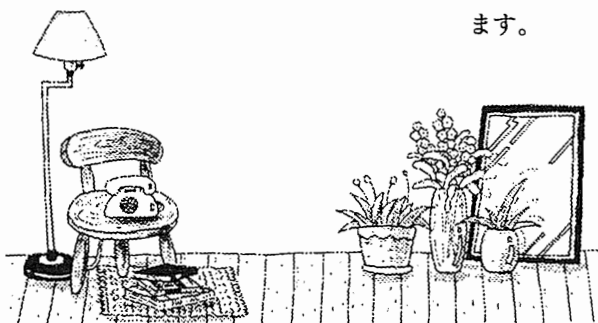
福田 武重

東京北稜山岳会の仲間と、ナチュラルスキークラブからの仲間とが合流し昭和46年クラブを設立翌47年(1972年)東京都スキー連盟に加盟しました。

どんどん滑ろうという事からドンスキークラブと命名し会員数も76名で、この他に家族がクラブ行事に参加したりしますと活気に満ちたものになります。昭和62年細胞分裂があり有資格者8人が切除されましたが、現在では正指3、準指3にまで回復しました。クラブ員の年齢構成も若くなり親子2代の会員も増えています。楽しく安全なスキーを目標として、月一回の理事会で明るく開かれたクラブの運営を心がけ、次の世代に安心してパトンタッチできるようにしています。

年間行事としては、スキースクールを二回、バッチテストを一回合宿を三回程度行なっています。最近では海外に行く仲間も増えて、スイス、フランス、ニュージーなどがあります。オフシーズンにはテニス等の自主トレーニングの他に登山をします。昔とった杵柄で山岳指導員がいますので、日帰りのハイキングから3000m級の山までザイルとハーケンを使わない範囲の登山を楽しんでいます。

スキーを媒体として知り合った仲間を大切に、スキーを生涯教育の一環として位置付け、これからも安全で楽しいスキーをする為に技術の向上をめざし、親睦を深め魅力のあるクラブにしたいと思います。



## 50周年を目指して

狩野 公明



今日はNo297の大田区役所スキー部です。

東京23区の中で面積が一番広く、田園調布、山王、久が原などの住宅街、JR蒲田、大森周辺の商店街、

そして空の玄関羽田空港のある区、大田区の職員を中心に構成されたスキー部です。

当部は昭和31年の秋、山好きの大先輩達が集まり誕生しました。都連に加盟するまでの間は当部の先輩指導者が都庁スキー部に在籍していた関係で同スキー部の合宿にも参加していました。しかし、区の事情もあり同スキー部に紹介団体になっていただき昭和47年9月に正式に都連の加盟団体になりました。

当部は現在、部員数100名を越え、有資格者22名(正指11名、準指11名を有するになりました。活動は年末年始の田沢湖、2月の菅平、3月の野沢温泉スキー場での講習会、区民スキー教室への講師派遣、各種大会への参加などです。

職員の採用が少なく、また、レジャースキーはやるがスポーツとしてのスキーをやるという若者が少ないため部の高齢化が悩みです。しかし、なかには公認大会で優勝する部員もいますので、いままでの伝統にさらに何かを加えてくれるものと願っています。

上のマークは当部の部章で雪の結晶の上にO.S.C.とシュプールを描いたものです。

太った「大田区」ではなく点のない「大田区役所スキー部」ですので今後ともよろしく願います。

## 青藍クラブ “藍より青く”

会長 綿引 清明

クラブ創設当時、仕事柄「働いて学ぶ若者に夢を」と、仕事の糧となる何かを野外スポーツに求め、若い仲間と集い自然を求め、山に海に出掛けたのでした。

冬はスキーであっただけで滑り方がどうのではなく楽しければ良かったのでした。都連にお世話になったのは、何年か後の事でした。同じ根を持つ仲間が集まり和す事の楽しさ、その根から芽生え、そして樹に、時には話の花も咲き、良く、何十年も続いたものだと思うのです。根株は、とかくボス支配が強くなり過ぎたり、古株の気ままだが、目立ったりし勝ちです。

根を大きく広げ、幹を太くするには、若芽と新根の成長に気を配らねばなりません。

楽しくなければ！明日の働く意欲を掻き立てる

何かがなくては！と悩みながら今迄・・・楽しみ方の数は増えても、楽しみの中は、狭められ規制され、何か、昔の方が良かった、と思うのは単なる郷愁でしょうか？

初心に帰り、大いなる“自然の樂園”に飛び込み、今此処に居られることに感謝し謙虚さを忘れないようにしたいと思うのです。世代交代を繰り返しながら、或る種のゆとりある考え方がクラブ組織の主軸になっております。幸い、良き人々との出逢いに恵まれて週末は、峰の原高原のロッジにオーダー無しで三々五々、月に一度は、他の場所に出掛けられるように楽しい苦勞をして居ります。“藍より青く” 現在、クラブ幹部、及び会員は、先人を越えんと頑張っております。

今日迄、細々ながらやって来られたのもご指導お導き下さった方々の御蔭と感謝致し、今後共、よろしくお付き合い下さる様、お願い申し上げます。



## 編集後記

雪上の事業も滞りなく終了したとの報告を各部からいただき、本号で紹介することができました。

我々の総務本部も2月初めに、信州総合開発観光(株)殿のご協力で雪上研修会を車山スキー場で行ないました。昼間はスキー技術の習得、夜は「アルマナックの発行」「名簿刊行」「事務担当連絡会議」「60周年の記念誌や行事」などのミーティングを行ない、帰りの電車を気にすることなく、活発な話し合いができ有意義な研修会ができました。

研修会で十分充電したエネルギーを使い、来シーズンに向けパワー全開で、がんばります。

編集者 委員長 東 和夫

委員 本間 毅一、三瓶 一男、塚本 哲夫、蒔野 秀治、海老沢 晃、藤雄比佐夫、川淵 誠、内田 修子、土屋 東明、斎藤かおり

